



本田よう一先生(前列右から3人目)を囲んで記念撮影。多彩な体験を通して参加者が交流を深めました。

「厳寒の飯館を愉しむ！」 2つのツアーを合同開催

2月2日、「第9回飯館YOITOKO発見!ツアー」と「飯館・村内1日バスツアー」を合同開催。県内外から25人が参加しました。一行は、綿津見神社で「宮内の笠踊りと手踊り」を鑑賞し、「作見の井戸」でも村の歴史に耳を傾けました。いちばん館では、郷土料理を味わいながら交流。料理研究家の本田よう一さんをゲストに迎え、一緒に凍み大根づくりや団子さしを体験し、先生考案のレシピで凍み餅の調理も行いました。盛りだくさんのプログラムと温かな交流に、皆さん大満足の様子でした。



強風でリフトが止まる時間帯もありましたが、冬山らしい天候も貴重な体験。子ども達は元気いっぱいでした。

あだたら高原スキー場にて スキー・スノーボード交流会

2月11日、あだたら高原スキー場(二本松市)で飯館村公民館・いいたてスポーツクラブ主催の『スキー・スノーボード交流会』(復興庁被災者支援総合交付金事業)を開催。小学生からシニア世代まで27人の参加者が、レベルに応じた班に分かれてスノースポーツを楽しみました。

インストラクターやいいたてスキークラブのメンバーによる指導も「技術の向上に役立った」「息子が滑れるようになった」と好評。参加者同士が世代を問わず交流を深めていました。



小宮の田植踊



大倉の神楽

小宮の田植踊・大倉の神楽を 双葉町の震災伝承館で披露

県が双葉町に設置した「東日本大震災・原子力災害伝承館」で昨年12月より開催されている企画展「長期避難と祭り」の一環で『ふたば・いいたて民俗芸能大集合!』が2月22日・23日に開催され、飯館村からは小宮民俗芸能保存会の田植踊と大倉民俗芸能保存会の神楽が参加しました。原発事故により長期避難を余儀なくされた中でも伝統芸能を継承・復活させている団体の姿を披露する趣旨の催しで、両保存会は23日に出演し、館内のロビーで華やかな舞いを披露しました。

飯館村水道事業運営協議会・ 農業集落排水事業運営協議会答申

飯館村水道事業運営協議会・農業集落排水事業運営協議会が、村の諮問3件に対する答申を行いました。答申は1月31日に村役場で行われ、「水道使用料及びメーター使用料改定の見送り」「農業集落排水処理施設使用料改定の見送り」「給水装置工事および排水設備工事に係る指定工事業者の登録・更新に係る手数料の徴収」の3点が答申されました。両審議会の長正増夫会長(大久保・外内)、鹿山真広副会長(深谷)が、杉岡村長に答申書を手渡しました。



長正会長(右から2人目)と鹿山副会長(右端)から答申書を受け取る杉岡村長と中川副村長。

マルナカ株式会社から 防災グッズの寄贈

環境省発注の事業などを通して村の環境保全に尽力いただいている「マルナカ株式会社」(二本松市)から防災用品を寄贈いただきました。「頻発する災害への備えを万全にすることが、地域の再生や発展につながる」という思いのこもった寄贈です。

贈呈式は1月31日に村役場で行われました。同社の遊佐憲治取締役副社長が「村民の皆様の理解があってこそ私達も事業が行える。防災力強化の一助としていただきたい」と目録を贈呈。村は同社に感謝状を贈り、支援に感謝を伝えました。



目録を手渡す遊佐副社長(右から3人目)。救助に役立つ工具等のレスキューキット3点をいただきました。

横山梨沙さん任期満了で 地域おこし協力隊を卒隊

飲食店の運営を中心に多彩な活動を展開してきた地域おこし協力隊の横山梨沙さんが、3年間の任期を満了し1月31日に卒隊。同日、村役場で卒隊式が行われました。結婚のため春に転出することになった横山さんは「村に残ることができなくなり本当に申し訳ない。村を離れたら、村民の皆さんの温かさ、他にはないおいしい食材がずっと恋しくなります」とあいさつ。卒隊証書を手渡した杉岡村長は、これまでの尽力に感謝し、新たな門出に心からのエールを送りました。



金ウン



協力隊仲間や村職員が駆けつけた式。横山さんの後ろは「金ウン(金運)」を受けに来たOGの二瓶麻美さん。